

第 2 期 第 6 回
高圧ガス規格委員会
議事録

1 日 時：平成 22 年 6 月 25 日(金) 14:00～16:30

2 場 所：発明会館 会議室

3 出席者：(敬称略・順不同)

委員長：木村

委 員：大谷、堀口、駒田、渡辺、金重(倉田委員代理)、佐々木(春山委員代理)、
高田、小峰、三宅^博、萩原、小澤、平位、土屋、佐藤、山崎^俊

KHK：荒井、松木、長沼、宮下、須知、小山田

4 配布資料

資料 46 第 2 期第 5 回 高圧ガス規格委員会議事録(案)

資料 47-1 断熱に関する基準(廃止) 書面投票結果

資料 47-2 断熱に関する基準(廃止) テクニカルレビュー結果(書面投票期間)

資料 48 KHKS 0850-3 保安検査基準(コンビナート等保安規則関係) 改正案

資料 48 参考 KHK/PAJ/JPCA S 0851(2009) 附属書 4

資料 49 ASME Delegate 活動報告

資料 49 参考 Delegate 活動について

資料 50 岩盤備蓄に係る保安検査基準等検討分科会委員名簿(案)

5 挨拶等

新任の土屋委員(前回欠席)並びに荻野委員が 4 月 1 日付けで退任した旨紹介があった。

6 議事概要

6.1 議題(1) 前回議事録(案)の確認・承認

事務局から資料 46 について、事前に各委員に送付済みである旨及び事前送付・確認の結果、内容に関わる修正等はない旨の説明があった。その後、資料 46 を正式な議事録とすることについて挙手による採決が行われ、出席者 16 名中 15 名の賛成(1 名は前回委員会欠席のため採決を棄権)により可決となった。

6.2 議題(2) 断熱に関する基準 KHKS 0802 の廃止について(書面投票結果等)報告

事務局から資料 47-1 及び 47-2 に基づき、KHKS 0802 の廃止に係る書面投票結果及びテクニカルレビューへの対応について説明があった。

なお、現在パブリックコメント及びテクニカルレビュー(継続)を実施している旨併せて説明があった。(期間：平成 22 年 6 月 18 日～7 月 20 日)

6.3 議題(3) 保安検査基準・定期自主検査指針 KHKS 0850・1850 の見直しについて

事務局から資料 48 及び 48 参考について説明があった後、以下の意見交換等があった。

①4.3.3 c)フレキシブルチューブ類の目視検査の項において JLPA209 金属フレキシブルホース基準が引用されている。同基準については現在 JLPA にて検討中であるが、KHKS 改正前に JLPA 基準を改正することとする。

また、附属書 B の B.3.1 で液化石油ガスの不純物についての規定が示されているが、水分(遊離水分がないこと)についてより詳細な規定を日本 LP ガス協会規格(JLPGA-S)として制定する予定である。これと併せ、硫化物に関する銅板腐食試験は JIS K 2240 によること。水銀に関しては、JLPGA-S によることを明記することとされたい。

→対応する。

②4.3.3 a)内部の目視検査に関し、フレキシブルチューブ類について特例的な規定が設けられていない。溶接接合によるものや小口径のものについては内部の目視検査が不可能である。産業ガス業界として影響度や対応案について検討している。

③附属書 B の表 B.3 については、関係者による勉強会でようやくまとめた(まとめつつある)という様な状況である。そもそも必要かどうかも含めて意見を伺いたい。

→水分の含有(乾燥・湿気)なども重要な要素である。表 B.3 を残すならそれらも注意事項として記すべき。

→ゴム類は温度条件が重要であろう。

→ゴム類は特に難しいのではないかと。事務局も認識していると思うが、ゴム材そのものや可塑剤の配合率などでその特性が変わる。消防法の設備においてゴム材の劣化が問題となり、ここで議論しているようにゴム材に関する使用規定を整理しようとする動きがあったが、最終的にはまとめることができなかった。

→事務局の説明にもあったが、参考例の位置付けであれば表 B.3 のガス種はもう少し絞る

べきではないか。

→内容物と材料の適合性については本来、供用中の確認事項ではない。内容物と使用環境(温度、圧力等)及び実際に使用するフレキシブルチューブ類の特性(使用材料、構造等)を総合的に判断して使用の可否を決定すべきものである。

④4.3.6 について、いわゆる 6 点法についての記述だが、事務局の説明のとおり保安検査の方法としては性格が異なる。それを踏まえ、4.3.5 の項目に統一してはどうか。

具体的には、4.3.5 の一項目を耐圧試験として整理(併せて耐圧試験圧力について記述する。)し、もう一項目を溶接補修を行った場合の耐圧試験として整理してはどうか。

→指摘の方向にて整理する。

以上のような意見交換等があったが、本日の議論を踏まえ資料 48 の一部を見直すこととし、それを持って 1 ヶ月半程度の期間で意見募集を行うこととなった。

なお、意見募集については事務局より改めて各委員に連絡することとなった。

6.4 ASME Delegate 活動報告

事務局から資料 49 に基づき、5 月に実施された ASME 規格(圧力設備と配管の補修規格)の改正に係る書面投票結果の説明があった。

また、資料 49 参考に基づき、ASME における規格作成組織の見直し、圧力容器規格の構成見直しの状況等について説明があった。

6.5 議題(5) その他

事務局から資料 50 に基づき、岩盤備蓄に係る保安検査基準等検討分科会委員の交替について説明があり、山田氏(岡山県)の分科会委員就任が承認された。

7 その他

事務局から、次回委員会の開催については平成 22 年 9 月頃を予定している旨連絡があった。

以上